



## 2 ナポレオンの支配に対する反発

- ・ナポレオンは、ヨーロッパ各地に属国をつくり、兄弟などを国王として置いた。
- ・フランス革命の自由、平等という理念に支えられたナポレオン軍は、最初各地で絶対王政からの解放者として歓迎された。  
→フランス革命の動力源である（ ）が、各地に浸透していった。  
→人々は、外国人であるナポレオンの支配に疑問を感じるようになった。

### <プロイセン>

- ・ティルジット条約により、プロイセンは賠償金を課せられ多くの領土を失った。  
→（ ）、つづいて（ ）が、都市の自治、農民解放（農奴制の廃止や職業選択の自由）、軍制改革などさまざまな改革を行った。
- ・（ ）は、「 」という講演でドイツ人の愛国心を高めた。



プロイセン王国の首相を務め、農奴解放や、軍制改革などを行ったが、ナポレオンににらまれて失脚した。

シュタイン



シュタインの後、プロイセン王国の首相となった。この二人の改革により、プロイセン軍も、国民軍となっていた。

ハルデンベルク



哲学者で、ヘーゲルなどと並んで、ドイツ観念論を代表する人物である。ベルリン大学の初代総長でもある。

フヒテ

### <スペイン>

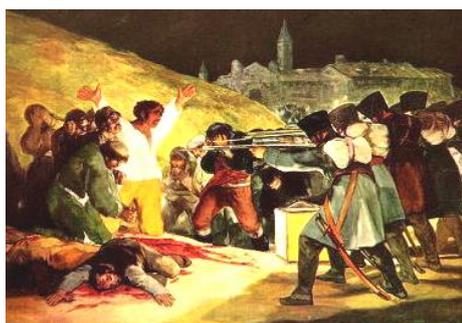
- ・スペインでは、ブルボン朝の王が追放されたあと、ナポレオンの兄ジョゼフが国王についていた。  
→1808年以降、フランスに対する反乱が続発した。

- ・スペイン人は、強力なフランス軍に対し、各地で小規模な抵抗を続けた。
- ・またスペイン人画家の（ ）は、強大なフランスに抵抗する民衆を題材にした絵画を多く描いた。



ゴヤ(弟子)作「巨人」

ゴヤは、スペインの民衆を巨人に例え、ナポレオンの侵略に対して立ち上がる姿を描いたとされる。ただし最近になって、ゴヤ本人ではなく弟子の作品だとわかった。



ゴヤ作「マドリード、1808年5月3日」

ゲリラ戦を展開するスペインの民衆に対して、ナポレオンは熾烈な報復を行った。手を広げる男は、十字架のイエスを模していると言われている。絵のタイトルは様々な表記があるので注意。ゴヤを見るならスペインのプラド美術館へ！

### <ロシア>

- ・1806年、ナポレオンは、抵抗するイギリスを孤立させ、フランスによる大陸市場の独占を目指して、（ ）をベルリンで発した。  
→ヨーロッパ大陸とイギリスとの貿易や交通を全面禁止した。  
→小麦などの穀物をイギリスに売っていたロシアは、非常に困った。